

(4) 講 評

○委員長 それでは、今、委員だけで研究課題と、それから研究開発基本計画についての評価をいたしました。

最初に、御発表いただきました発表者のPPP-RTKのものですけれども、分科会で評価をいただきましたように、成果としては十分な成果が出ているということですので、研究評価としては十分であるという結論を述べさせていただきますが、基本的には、いわゆる理論の検証をおこなっている段階で、実際に実装、運用するというのはこの先になると思うのですけれども、運用にまでいった場合には他省庁との連携というものがもっと重要になってくるだろうということです、実装して運用するようになれば他省庁との連携をうまくやっていただきたいという点がございました。

今回は、基礎的な研究においては十分な成果は得られているのですけれども、実用化のための弱点も多分あるだろうということです、その実用化のための弱点を今後とも継続して調べていく必要があるだろうということでした。

あと、これは私が先ほど質問の中でお聞きすればよかったのですが、スライドの中ではつくば1というところのデータのみが出ていたわけですが、今後、100局程度の観測点で安定性をというところが書いてございましたので、その点について逐次やっていかれる必要があるのかなということです。

これは質問なのですけれども、つくば1というのがメインで解析をやられたと考えてよろしいのでしょうか。

○発表者 お出ししたのはつくば1ですけれども、この資料を作成する時点で、まだ100点程度という結果がなかった、5点ぐらいでやっても大体同じような結果が出ているということは確認しています。100点の結果で、今分析中ですが、まさに運用上のトラブルというのもありまして、やっぱり乱れるところもあったということで、原因はわかりまして、対処可能なものですので、引き続き評価を続けているところです。

○委員長 はい、わかりました。ということで、ここで今後100点程度ということが書いてございましたので、それは追従でやっていただければと思います。

それから、ソフトウェアのほうでRTKLIBが使われているということなのですけれども、これは東京海洋大の高須先生のつくられたものということで、私も使っているのですけれども、GSILIBというのも一時期ありまして、これは国土地理院用に一部変更して使われた

ということなのですが、委員の中からあったのは、国の組織、国土地理院として、GSILIBのようなものがないと、高須さんがやめられたときにまた使えなくなってしまうことが起きてくる可能性があるので、そういうことを考えていく必要があるのではないかと。個人の方に頼っているソフトウェアになっているので、何らかの国の組織——国と言っても国土地理院なのかもしれませんが、担保した形で、具体的に言えば、GSILIBというのが出たような、誰でもが使えるような形にしていく必要があるのではないかというお話がございました。ただし、かなりの労力がかかるので、すぐにできるとか、できないということは難しいと思うのですが、現状においては、高須先生のほうに頼っているということになるので、そういう問題があるのではないかということの指摘がありました。

もう1つは、この研究そのものが発表者に頼っているというところがすごくあって、先ほど委員会の中でもありましたけれども、そこら辺のところが心配ですねというお話がありました。そのときに委員の方からあったのは、どちらかというと、個人でやっている研究課題というのが最近非常に多いような気がするのですけれども、チームでやるというか、そういうような形のものが最近余り見られないので、研究課題の選び方がどうなっているのかなというような御指摘もございました。それは予算のとり方という問題にも多分関係しているのだらうなという気はしますけれども、そのあたりが気になるなというお話でございました。

いずれにせよ、今回のテーマにつきましては、基礎研究としては十分な成果を得ているということなので、幾つか御質問とかコメントがあったと思いますので、それに基づいてまた継続的にやっていただきたいということでございました。

もう1つの研究開発基本計画ですが、先ほどの会議の中で御意見が幾つかありました。私も全部メモをとり切れてないので、ここでもう1度復唱して言うことは控えますけれども、いろいろ御意見のあった内容について、この中身を精査していただいて、6月ぐらいにお示しいただくときにまたお聞かせいただければと思います。

もう1つは、先ほどの研究課題でもそうだったのですけれども、研究の成果をいろいろと対外的にアピールしていくということが重要なだけけれども、最近では地理院の方が海外だとか国内外の学会に出ていくチャンスが少ない。つまり予算的な問題があるのではないかなと思うのですけれども、いわゆる研究開発基本計画でございますので、そういう意味では、研究成果を積極的に国内外にアピールするということを盛り込んだ上で予算化していくことが必要なのではないでしょうかという御意見がございました。ということで、き

よう会議の中で出てきた意見も踏まえまして、そのあたりを検討していただきたいという御意見でございました。

先生方、何か追加して講評がございましたら。大体、先ほど話があったものは含まれているかなと思うのです。よろしいでしょうか。

では、そういうことでよろしく願いいたします。